



仁風荘で新そば振る舞い



大 石田そば道楽の会（阿部栄会長）による打ち立て茹でたての新そばの振る舞いが11月5日（水）に仁風荘で行われました。振舞ったそばは、出来たてのおいしさを味わってもらおうとそば道楽の会のメンバーがその日の朝早くから打ったもので、そば粉16キロで入所者のほかデイサービスの利用者や職員に150食のそばが提供されました。

茹でたてのそばが提供されると入所者らは笑顔で味わい、会のメンバーは「おいしいですか」、「元気に過ごしてね」などと声をかけて施設をまわり、入所者や利用者をいたわっていました。

長～い自然薯採れました

自 自然薯の収穫体験が大石田南小学校で11月20日（火）に行われました。南小では毎年、大石田町新作物開発研究会（海藤明会長）の協力により6年生児童が春に種芋植え、秋に収穫体験を行っています。

収穫体験は研究会メンバーのほか、苗を提供し、自然薯を使った料理を開発している村山産業高校農業部の生徒も参加して研究会が管理する学校わきの畑で行われました。児童は研究会や高校生の指導のもと土を掘り起こして長いもので1メートルほどに成長した自然薯を次々に引き抜き、収穫を喜びました。学校では研究会のメンバーも招いた収穫感謝祭を開き、自然薯料理を楽しみました。



ものづくりの魅力に触れる

厚 生労働省「目指せマイスタープロジェクト」の特別授業が11月22日（木）に大石田小学校で行われ、6年生の児童が木製ペン立てづくりを体験しました。

これは山形県職業能力開発協会の協力で開かれたもので、児童は厚生労働省認定ものづくりマイスターで、技能グランプリで2度日本一に輝いた家具・建具制作の菅野政司さん（東根市）の指導を受けながら、7枚の板を接着させて高さ約10センチのペン立てを完成させました。さらに児童らは家具の装飾で使われる組子の技法も体験し、ものづくりの面白さを感じながら知恵の輪を解くように慎重に組み立てていました。



税金とお金の大切さ学ぶ



各 小学校で税金教室が開催されました。このうち大石田北小学校では12月10日（月）に6年生児童を対象に開かれました。

これは町役場町民税務課職員が講師となって毎年開かれているもので、なかなか実感する機会のない税金について知ってもらうため、買い物した際の消費税、あつたまりランド深堀を利用した際の入湯税など児童にも身近な事柄を例に出して様々な税金やその使い道について説明しました。また、1億円のサンプルを持って重さを体感してもらうコーナーもあり、子どもたちはお金と税金の大切さを学びました。

食生活改善に地域の力を



大 石田町食生活改善推進員連絡協議会の設立50周年を記念する講演会が12月12日（水）に保健センターで開催されました。県立米沢栄養大学の北林蒔子准教授による「子どもの食と栄養」をテーマにした講演で、北林さんは子どもだけでなく大人までもが食品添加物や外食の濃い味つけに慣れてしまっていると指摘。保護者の食生活の乱れが子どもの欠食や偏食につながっているとして、子どもたちの心の健康のために家庭で家族がそろって食事をとることが重要だと話しました。

さらに食育には地域の力も重要だとして、参加した食生活改善推進員らに向けて、地域が一丸となった幼児期の食育の大切さを訴えていました。

全身使って楽しむコンサート

ク リスマスあそびうたコンサートが12月2日（日）に大石田北小学校体育館で開かれました。これは大石田保育園保護者会（佐々木英友代表）が企画したもので、大石田保育園に通う園児のほか町内の子どもとその保護者約100人が歌と踊りを楽しみました。

コンサートは仙台市の遊び歌ユニット「あきらちゃん&ジャンプくん」による子どもと保護者が一緒に楽しめるステージで、子どもたちが歌に合わせてポーズをとったり、お父さんたちがダンスを披露したり、ギャグを織り交ぜたステージに子どもたちは大きな歓声を上げて楽しんでいました。

